

## II 2013（平成25）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

### 1. 実施目的

今後の教育内容の改善、また充実した教育プログラムの維持・構築に役立てることを目的とする。本学大学院の教育の質的向上を目指して、全学的規模で「大学院生による教育評価アンケート」を実施した。

### 2. 実施方法

#### 1) 実施期間

2013（平成25）年12月12日(木)～2014（平成26）年1月29日(水)に実施した。

#### 2) 調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

#### 3) 在籍者数・回収数・回収率

研究科・専攻名		在籍者数（名）	回収数（名）	回収率（％）
人間文化 研究科	応用英語	2	1	50.0
	人間文化	8	7	87.5
	生活福祉	6	6	100.0
	計	16	14	87.5
心理学 研究科	発達・学校心理	4	3	75.0
	臨床心理	18	16	88.9
	計	22	19	86.4
全学		38	33	86.8

#### 4) 調査内容

最初に、回答者の属性（学年・所属研究科（専攻））を尋ね、次に当該科目に関する以下の項目について尋ねた。設問は選択式10問、自由記述2問であった。

#### 調査項目

##### (1) 評価項目

###### 選択式

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
- ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである
- ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
- ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている
- ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている
- ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている
- ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
- ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用

意されている

⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている

⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

自由記述

○ あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください。

○ あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください。

## （2）回答形式

選択式設問①～⑩については、以下の 5 件法で回答させた。

5：そう思う

4：どちらかと言えばそう思う

3：どちらとも言えない

2：どちらかと言えばそう思わない

1：そう思わない

## 5) 実施手順

人間文化研究科では、応用英語専攻については、専攻主任が個別に配布した。人間文化専攻については、FD・点検評価委員が人間文化専攻「文化学研究実践論」M1 生修士論文構想発表会（M2 生も出席）時に配布し、生活福祉文化専攻については、M1 は中間発表会時、M2 は修士論文指導教官から配布した。心理学研究科については、修士論文発表会時に配布した。回収は各大学院生が教務部学事課に提出した。

## 6) 結果の集計

集計は、株式会社学習調査エデュフロントに依頼した。

## 7) 教員への結果通知と集計結果の配布

2014（平成 26）年 3 月 5 日（水）2013（平成 25）年度全学教員研修会時に、全学および、学部／学科、研究科／専攻ごとの集計結果は、その際に、全専任教員に配布した。